

# もも・ネクタリン特報

開花は平年よりも7~10日程度早く経過しておりますが、地域差がありますので園内の生育状況をよく確認し、防除並びに管理作業は遅れないよう計画的に進めましょう。

前回のボルドー散布以降、梅雨明けまでがせん孔細菌病の重点防除期間です。散布時期を厳守し、併せて春型枝病斑の除去を実施しましょう。また、アブラムシ類の初期発生が見られる場合は、下記を参考に殺虫剤を追加して散布下さい。

【開花状況】白鳳（調査地点：平岡-若宮） \*参考 日野地区 開花4/9

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	平年
開花	4/28	4/17	4/20	4/13	4/23	4/28	4/26	4/18	4/23	4/18	4/10	4/21

地域・品種によって生育差がありますので、園地の生育状況をよく確認しましょう！

## 第3回 定期防除

もも・ネクタリン混植園では、ネクタリンの防除を行なう

- 共通**
- 他作物へ飛散しないよう十分注意する。訪花昆虫保護のため早朝に散布する。
  - せん孔細菌病の発生園は、通常展着剤に代えて固着性展着剤「KKステッカー」の3,000倍または、「アビオンE」の1,000倍を使用する。\*「KKステッカー」を使用する場合は、必ず最後に調合する。
  - アブラムシ類の発生園は、ウララDFの2,000倍(もも14日前・ネクタリン7日前、2回)を加用散布する。

もも ・・・ 散布時期：落花後（4月20日～27日）

散布薬剤： 水	100ℓ	
展着剤	10ml	
フェニックスフロアブル	25ml	(前日、2回)
トレノックスフロアブル	200ml	(7日前、5回)
アグレプト水和剤	100g	(60日前、2回)

散布日	4月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、モモハモグリガ、ハマキムシ類、(コスカシバ)

10a 当り散布量： 350ℓ

### 【注意事項】

- ①アグレプト水和剤、アグリマイシン-100、ストマイ液剤等の使用回数は、合計で年間2回までとする。尚、ぶどうにかかると種無し果を生じるので、隣接園は注意する。
- ②アグレプト水和剤に代えて、アグリマイシン100の1500倍(60日前、2回)、ストマイ液剤20の1000倍(60日前、2回)でもよい。

ネクタリン ・・・ 散布時期：落花後（4月20日～27日）

散布薬剤： 水	100ℓ	
展着剤	10ml	
フェニックスフロアブル	25ml	(前日、2回)
トレノックスフロアブル	200ml	(30日前、5回)
マイコシールド	66g	(28日前、5回)

散布日	4月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、モモハモグリガ、ハマキムシ類、シンクイムシ類、(コスカシバ)

10a 当り散布量： 350ℓ

【注意事項】 ①アグレプト水和剤・アグリマイシン・ストマイ液剤等は、ネクタリンに登録がないため使用しない。

生育の早い年は、小玉傾向になりがちです。(特に早生種) 摘蕾・摘花を実施しましょう。  
ワラ巻きを実施している園地では、4/20頃を目安に除去しましょう。